

筑紫（九州）の万葉集と風景画シリーズ（第七十四回）

く たみ やま

「朽網山」

（九州・九住山）

くたみやま ゆうい うすい

朽網山 夕居る雲の 薄れ去

あれ

なば 我は恋ひむな

ほ

君が目を欲り

作者未詳 卷十一—2674

（解説）

・朽網山に夕方かかっている雲の影が薄くなっていくように、あなたがわたしから離れていってしまったら、わたしは逢いたくて、恋しく思うことでしょう。

・この歌は作者未詳で女性の歌といわれ別離における女心の悲しさを歌ったものと解されている。

・「目を欲り」とは「逢いたく思うこと」。

1) 「朽網山」は豊後国風土記(直入郡条)に、「救覃峯ぐたみのみね(郡の北にあり)この峯の頂に、火、恒つねに燎もえたり」とある。
・「この峯の頂に、火、恒つねに燎もえたり」とあるは火山のことを指すといわれる。

2) 「朽網山くたみのみね(救覃峯ともいう。)」は林田正男著「万葉の歌」などには、救覃峯は豊後直入郡北境の連山(熊本県に接する所で、現在の^{くすぐん}大分県の北西部にある竹田市と同県中西部にある玖珠郡九重町にまたがる連山)で総称名「九重山」と呼び広くは九州の屋根あるいは九州のアルプスと称される一七〇〇メートル級の十以上の山々をいつたものか。狭い意味では異説もあるが、「豊後風土記」の説などを考へ合わせ群山の主峰である現在の^{くすぐん}大分県竹田市にある九重山(九重連山)を形成する主峰「久住山(標高一七八七mの火山)」の古名が「朽網山」であつただらうとの趣旨の説を述べる。

・なお、一般的には【久住山】説が多くを占めている。

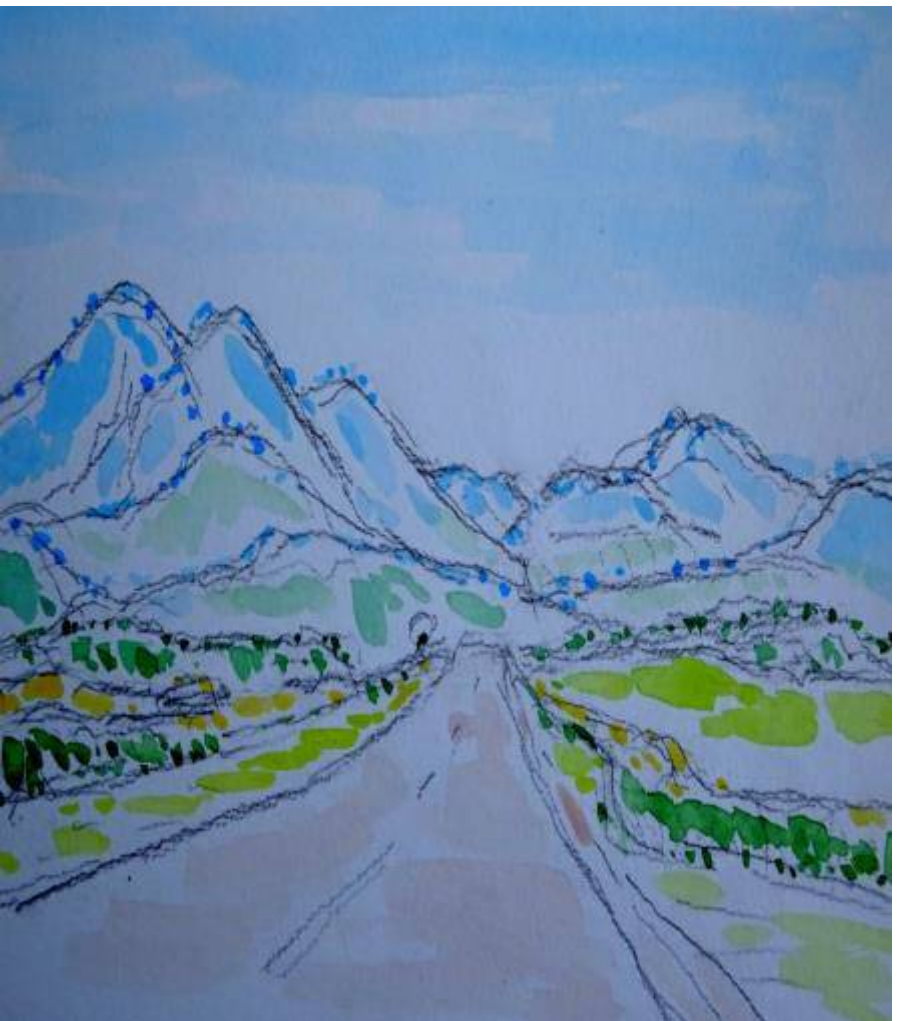
3) この万葉集で詠われている久住山を始めとした九重連山は昭和三十九(1964)年に別府と阿蘇をつなぐ観光ル

ートとして開通した通称「やまなみハイウェイ」、(正式名は県道11号線一部)は大分県由布市・水分峠(標高707メートル)から熊本県阿蘇市一の宮に至る延長58・9キロの高原道路であるが、車で走ると広い草原とそして九重連山が間近に迫る雄大な景観を望むことができる九州が誇る絶景のドライブルートで日本名道に選ばれている。

(参考文献) 福田良輔著「九州の万葉」 大分百科事典、林田正男著「万葉の歌」等

(写生地) やまなみハイウェイ(長者原付近) から望む九

重の山々。





(位置図) 久住山とやまなみハイウエイ等